



# 第4会場 ● 4F 大研修室

■司 会 / 原田 尚 島根県雲南市立加茂小学校 主幹教諭  
杉山 陽子 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方

10:45~10:50

## 1 楽しいまちづくり講座「大原維新」 ～参加型学習のワークショップの導入による地域コミュニケーションの活性化～ 10:50~11:20

夏目 洋子 (福岡県福岡市) 福岡市大原公民館 主事

地域活動は一部役員だけで決定され、住民からは「やらされている」という声が聞こえた。このマンネリ化を打破するため、「まちづくり応援隊」を講師に招いて、参加型学習の「ワークショップ」を導入した。第1回は「ここが気になる大原」、第2回は「こんな街に住みたい、大原」、第3回は「大原起動手計画」を立てようということで、ついに「フラワータウンプロジェクト」とそれに付随する活動が発足した。協議と活動結果の報告書は、公民館が作成して全戸に配布している。この過程で、新しい人のつながりが生まれ、校区内のコミュニケーション・ルートを開発でき、「たて・よこ」の人間関係から多様な意見が出るようになった。次の課題は、人材の発掘とコミュニティ・デビューの舞台設定、そのためには更なる魅力的な事業の開発である。

## 2 サロンづくりからコミュニティ・ビジネスへの挑戦 11:25~11:55

藤田 直子 (長崎県川棚町) みんなでワハハ 代表

平成24年、県の「女性力でながさを活性化プロジェクトチャレンジ事業」に採択され、活動を開始。50代の女性が10名集まり「ちいさな親切・ちいさなお世話」をモットーに肯伸びをせず可能な範囲で週3回開催するサロン「井戸端みんなでワハハ」を9月に開設。平成25年度は、同じ事業のステップアップ事業に採択された。自由な発想でインフォーマルサービスを行い、地域の高齢者や女性の笑顔の集まる居場所となっている。目標はコミュニティ・ビジネスの確立。活動産物からオリジナル商品の開発をし、販売で収益をあげている。事業参加は女性の自信を育み、苦手としていたビジネスの手法も取り入れ、社会進出の可能性を広げている。

## 3 地域と学校の「互恵関係」を育む学校支援地域本部事業 12:00~12:30

中村 謙太郎 (熊本県八代市) 八代市立第四中学校区学校支援地域本部地域教育協議会 地域教育コーディネーター

八代市の学校支援モデルを構築することを目標としてスタートした校長発想の事業である。当初は市行政の協力は得られなかったが、地域からは校区内のボランティア団体のほとんどが加盟する総合社会教育推進協議会が学校支援ボランティアとして登録してくれた。また、事業の進行過程で、校区公民館の支援も得て、コーディネーター2名は事務室に常駐して、地域と学校の連携を進めた。支援対象は、中学校1校、小学校1校である。本事業は、地域資源を活用して学校の要望に応えるだけでなく、コーディネーター自らが支援計画を立案し、子どもたちが地域行事に参加し、合わせてイベントの設営準備や地域清掃を行なうなど、学校と地域が「互恵」の関係を持てるよう工夫を凝らした。子どもたちは地域になじみ、地域は学校とともに子どもを育てようという意識が向上し、学校と地域の協力関係は理想の形に近づいたのである。